

[資 料]

高等学校における保健科教育に関する一考察

井筒次郎*・時本識資**・中馬充子***・吉田瑩一郎*

(平成8年10月17日受付, 平成8年12月3日受理)

A Study on Health Education in High School

Jirou Izutsu, Tsunetsugu Tokimoto, Mitsuko Chuma and Eiichirou Yoshida

I. 研究の目的

高等学校における科目「保健」は、生涯を通じて健康で安全な生活を送るための基礎を培う教科として中心的役割を担っている。そこでは、健康・安全に関する基礎的・体系的な知識を習得させることにより健康問題を認識し、これを科学的に思考し、正しく判断し、適切に対処できる能力を身につけることがねらいとされている¹⁾。

そのため保健の学習指導は、発達段階に応じて、健康・安全に関する基礎的・基本的事項を理解させ、健康・安全に関する認識を高め、思考力や判断力を育てるとともに、これらを通して確かな意志決定ができるようにすることを旨として工夫されることが重要である²⁾。

その目標達成のために、各学校においては、学校や生徒の実態に応じてさまざまな学習指導上の工夫がなされていると考えられる。

本研究は、平成6年度から学年進行で行われている新学習指導要領下における高等学校の保健の授業について、その実態を体育主任に対する調査から把握し、現状の問題点を明らかにするとともに、新しい時代における保健の学習指導のあり方について考えるための基礎的資料を得ようとする目的で行われたものである。

II. 研究の方法

(1) 対象

調査対象は1013名の体育主任である。調査対象の選定に当たっては、平成6年度版『全国学校総覧』³⁾を用い、系統抽出によって各都道府県21~22校ずつ選んだ。

(2) 方法

方法は質問紙郵送法である。質問紙は本論末尾に掲載した。

(3) 期間

調査期間は平成7年11月29日~12月25日である。

(4) 配布数・回収数

配布数は1013枚、回収数は334枚、回収率は33.0%であった。

III. 結果および考察

1. 科目「保健」の実施学年および単位数

図1は保健の授業の実施学年(予定も含む)と単位数を示したものである。『高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編』では、保健の授業は1学年および第2学年において、それぞれ1単位ずつ履修させるよう指導計画を作成することが望ましいとされている⁴⁾。これは小学校第5学年からの継続性を期待するもので、保健教育の指導の効果を高めようとの配慮に基づいている⁵⁾。結果では、83.2%と多くの学校で、基準どおり授業の展開されていることが示されている。指導計画は学校や地域の実態に応じ工夫して作成されるものであるが、16.8%の学校においては、保健教育の継続によってもたらされるであろう成果以上に考慮すべき学校の事情があるということになる。

2. 学習内容の順序について

科目「保健」は「現代社会と健康」「環境と健康」「生涯を通じる健康」「集団の健康」の4つの単元から構成されている。

表1は各単元が実施された、あるいは予定されている学年について示したものである。

結果から「現代社会と健康」「環境と健康」は第1学年

* 日本体育大学, ** 文部省体育局, *** 西南学院大学

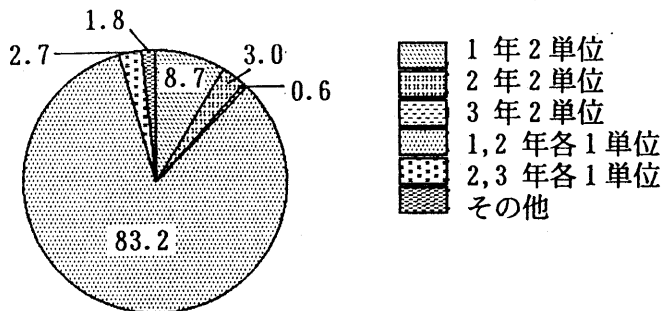


図1 保健の授業の実施学年と単位数

表1 各単元の実施(予定)学年 (%)

	現代社会と健康	環境と健康	生涯を通じる健康	集団の健康
1年	95.2	86.5	11.1	10.2
2年	3.6	9.6	85.6	85.6
3年	0.3	0.6	1.8	1.8
N.A.	0.9	3.3	1.5	2.4

表2 各単元の平均授業時数 (時間)

	計画	実際
現代社会と健康	21.3	18.4
環境と健康	13.5	9.6
生涯を通じる健康	19.5	15.5
集団の健康	13.8	8.0

で、「生涯を通じる健康」「集団の健康」は第2学年で実施される割合の高いことが示されている。

学習指導要領等において指導内容の順序に関する基準は示されておらず、指導の順序や指導内容の重点の置き方は学校や生徒の実態に即して弾力的に扱うことが大切であると述べられている⁶⁾。指導計画は当然こういった点を考慮して作成されているわけであるが、示された結果から、学習内容の順序は学校間でさほど変わるものではないことが伺える。つまり、学習指導要領に示された単元の学習について、順序を変えざるを得ないような状況はさほど多くないと考えてよさそうである。この点は、教科書の編集にも影響されていると考えた方が良くも知れない。ちなみに検定教科書を見ると、『保健体育』(一橋出版)の目次は、保健編第1章「現代社会と健康」、第2章「環境と健康」、第3章「生涯を通じる健康」、第4章「集団の健康」であり、『新高等保健体育』(大修館)は、保健編「1 現代社会と健康」、「2 環境と健康」、「3 生涯を通じる健康」、「4 集団の健康」の順序で編集されている。

3. 各単元の授業時数

表2は各単元の平均授業時数について計画と実際を対比させ示したものである。

第1学年で実施される割合の高い「現代社会と健康」「環境と健康」では、「現代社会と健康」に、第2年生で実施される割合の高い「生涯を通じる健康」「集団の健

康」では、「生涯を通じる健康」に授業時数を多く計画する場合の多いことが理解できる。つまり、重点の置き方には差があるということである。

第1学年では両単元あわせて平均34.8時間、第2学年では33.3時間と、年間35単位時間という基準から考えればおよそ妥当な計画であることが伺える。ところが授業実施の程度に着目すると、いずれの単元も計画を下回り、したがって、各学年の年間実施授業時数も、第1学年では計画の83.3%、第2学年では70.6%程度しか実施されていないことになっている。総授業時数が減少しているわけであるから、各単元にかかる授業時数の配分の割合が途中で変わったということではない。

そして「現代社会と健康」で15校(4.5%)、「環境と健康」では50校(15.5%)、「生涯を通じる健康」で30校(9.1%)、「集団の健康」では95校(29.1%)がこれらの単元について実施授業時数が0時間であることが明らかにされた。これらが計画を下回ったことにも影響を及ぼしている。

各学年とも平均で35単位時間に近い数字を示しているので計画に無理があったとは考えられない。そして計画された授業時数を短縮せざるを得ないような状況が、多くの学校において急に、しかも同時に生じるとは考えがたい。結果から見て、各学年において前半の単元に授業時間をかけすぎたということでもない。つまり、外的要因や特定の学習内容を強調するあまり他の単元が時間的制約を迫られたということではないと考えられる。

結果から、各学年とも後半で扱われるであろう単元に

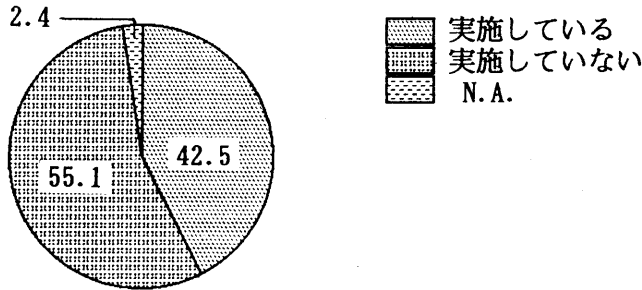


図2 診断的評価の有無

表3 診断的評価の方法

(複数回答 %)

	現代社会と健康	環境と健康	生涯を通じる健康	集団の健康
①選択方式の簡易テスト	33.1	32.4	31.0	31.7
②予習・復習的レポート	32.4	32.4	30.3	27.5
③理解度・達成度把握レポート	25.4	24.6	25.4	23.9
④自由記述式質問紙	19.7	19.7	20.4	20.4
⑤授業始めの導入質問	62.0	57.7	61.3	55.6
⑥日常生活の観察	42.3	38.7	41.5	39.4
⑦その他の方法	12.0	11.3	11.3	10.6

実施していると回答した142名を母数とした。

表4 課題学習の効果

(%)

	大変効果有	効果有	どちらとも	効果無	全く効果なし	N.A.
①学習意欲の喚起	14.7	59.0	21.6	0.6	0	4.2
②自主・自発的学習の促進	16.8	59.9	19.2	0.6	0	3.6
③思考・判断力の高揚	10.8	56.3	28.1	0	0	4.8
④知識・理解の充実	11.7	62.9	20.1	0.6	0	4.8
⑤問題解決能力の向上	9.9	52.4	30.8	1.5	0	5.4

より学習の程度が不足している。したがって、4単元の学習を通じて保健の目標を達成するといった観点からは、単元別の学習内容の程度にアンバランスが生じていることが推察される。4つの単元では特に、「環境と健康」「集団の健康」の単元に理解の程度が不足している場合の多いことが推察される。概して言えば、高等学校における保健の授業は、計画通り実施されていない場合が多いと指摘できる。

4. 授業に際しての診断的評価

図2は各単元の授業を始めるに際して、診断的評価がどの程度実施されているかを示したものである。

診断的評価が実施されている割合は、42.5%となっている。この結果のみでその多少を論じることはできないが、半数強の学校においては、学ぶべき単元について、生徒の理解の程度が把握されないまま授業に入っている

ことになる。

5. 診断的評価の方法

表3は診断的評価を実施していると回答した142校(42.5%)を母数とし、評価の方法を示したものである。

各単元とそれぞれの診断的評価の方法の間に有意差は認められない。つまり、単元によって診断的評価の方法を変えることは少ないということである。言い換えれば、変える必要のないことを示唆するものでもある。

評価の方法について、いずれの単元でも「⑤授業初めの導入質問」によって診断する方法が多く用いられていることがわかるが、他の方法にも回答がばらついている。重複回答という条件から見れば、それぞれの教員が各単元とも平均して2~3の方法に回答していることになる。つまり、診断的評価は「授業初めの導入質問」を中心に他の方法も複合的に用いられていることが理解で

表5 課題学習実施の状況

(%)

	実施した	予定有	予定無
1. 国民の健康水準・疾病構造変化	12.3	2.1	85.6
2. 健康の成り立ち	11.7	2.1	86.2
3. 食事・運動・休養と健康	16.2	3.3	80.5
4. 喫煙・飲酒・薬物乱用と健康	24.6	3.0	72.5
5. 医薬品と健康	15.0	3.0	82.0
6. 心身相関	13.2	2.1	84.7
7. 欲求と適応機制	15.0	2.4	82.6
8. 自己実現	12.6	2.1	85.3
9. 交通事故の現状と対策	18.0	3.6	78.4
10. 交通事故の防止と人間の行動	14.4	2.7	82.9
11. 応急処置	25.7	4.5	69.8
12. 環境の汚染と健康	21.6	3.6	74.9
13. 環境の調和と健康	17.7	2.4	79.9
14. 思春期と健康	17.1	3.6	79.3
15. 結婚と健康	18.9	3.9	77.2
16. 母子と健康	15.6	3.0	81.4
17. 加齢と健康	12.9	3.6	83.5
18. 職業と健康	12.6	6.0	81.4
19. 疾病予防活動	11.4	7.2	81.4
20. 環境と食品衛生活動	9.0	7.5	83.5
21. 保健・医療の制度	6.9	6.9	86.2

きる。

表2から指導計画と実際の授業の程度との間に不適合が指摘されたが、診断的評価が適切であれば、計画と実際のさがほど変わることは考えられない。したがって、指導計画の作成に生かすことのできる診断的評価についてもその方法が考慮されるべきであると指摘できる。

6. 課題学習の効果

課題学習とは、生徒が自ら学習の目標となる課題を設定し、自主的・自発的に学習を進め、課題の解決を図る学習である⁷⁾。

課題学習は、①生徒の学習意欲を喚起する、②自主的、自発的な学習を促進する、③健康・安全に関する思考、判断力を高める、④健康・安全に関する知識・理解を深める、⑤健康・安全に関する問題解決を図るといった点から重要な学習指導の方法であり、これまでの画一的な一斉指導を改善する上からも必要とされ、期待される学習指導の方法である⁸⁾。

表4はこうした課題学習の効果に対する教員の実感を、また表5は、その実施状況について示したものである。

①～⑤のいずれの点においても、課題学習の効果を認める(大変効果がある+効果があるに回答した者の計)教員の多いことが示されている。したがって、今後の学

習指導において、この方法に期待するところは大きく考えられる。

ところが表5の実施状況を見ると、各単元の内容について課題学習を実施し、もしくは予定している学校はさほど多いとは感じられない実態が示されている。もっとも多く行われている(予定を含む)内容で「応急処置」の30%程度である。

つまり、課題学習の有効性は認めていても実際にできない状況にある学校が多いと考えざるをえない。

そのような中で、課題学習が比較的多く実施されている内容は、4. 喫煙・飲酒・薬物乱用と健康、9. 交通事故の現状と対策、11. 応急処置、12. 環境の汚染と健康、13. 環境の調和と健康、14. 思春期と健康、15. 結婚と健康などである。これら回答の多かった内容は、現代の高校生にとって課題の問題点を認識しやすい内容であると推察できる。つまり教師にとっては課題学習が展開しやすい内容でもと考えられる。今後課題学習を取り入れて行こうとする学校においては参考となる結果でもある。

なお、課題学習がさほど多くの学校で進展していると言えない背景には、生徒が自ら課題を発見する能力に乏しい、つまり、課題学習が展開できるレディネスが備わっていないことも要因のひとつとして考えておく必要がある。

表6 課題学習の方法

(重複回答%)

	N	資料文献	調査活動	実験実習	討議法	ロールプレイ	その他	N.A.
1. 国民の健康水準	48	75.0	14.6	2.1	10.4	0	4.2	14.6
2. 健康の成り立ち	46	76.1	15.2	2.2	10.9	0	4.3	15.2
3. 食事・運動・休養	65	69.2	29.2	4.6	13.8	0	4.6	9.2
4. 喫煙・飲酒・薬物	92	73.9	19.6	7.6	18.5	2.2	8.7	6.5
5. 医薬品と健康	60	75.0	25.0	3.3	15.0	0	10.0	8.3
6. 心身相関	51	72.5	17.6	5.9	13.7	0	5.9	15.7
7. 欲求と適応機制	58	67.2	22.4	5.2	15.5	3.4	5.2	13.8
8. 自己実現	49	67.3	18.4	6.1	20.4	0	4.1	14.3
9. 交通事故の現状	72	66.7	27.8	4.2	13.9	0	12.5	8.3
10. 交通事故の防止	57	75.4	21.1	5.3	10.5	0	8.8	10.5
11. 応急処置	101	37.6	11.9	69.3	4.0	1.0	5.0	5.9
12. 環境の汚染と健康	84	71.4	40.5	6.0	7.1	2.4	6.0	7.1
13. 環境の調和と健康	67	79.1	38.8	6.0	10.4	3.0	1.5	6.0
14. 思春期と健康	69	68.1	24.6	1.4	20.3	0	4.3	8.7
15. 結婚と健康	76	61.8	23.7	1.3	27.6	2.6	5.3	9.2
16. 母子と健康	62	72.6	25.8	3.2	17.7	1.6	4.8	9.7
17. 加齢と健康	55	76.4	23.6	5.5	16.4	0	1.8	14.5
18. 職業と健康	62	69.4	32.3	3.2	8.1	1.6	3.2	17.7
19. 疾病予防活動	62	74.2	24.2	3.2	14.5	3.2	3.2	16.1
20. 環境と食品衛生	55	65.5	34.5	7.3	10.9	1.8	1.8	20.0
21. 保健・医療制度	46	71.7	26.1	4.3	10.9	0	0	23.9

Nは課題学習を実施した、または実施予定と回答した数。各内容はこれが母数になっており、それぞれ横計が100%である。

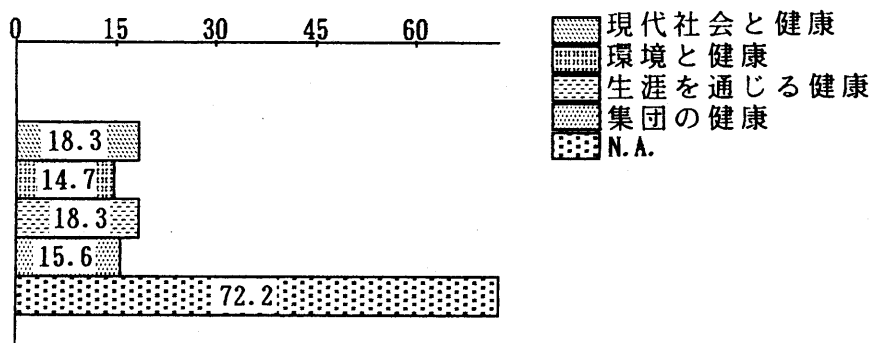


図3 ティームティーチングの実施状況

7. 課題学習の方法

表6に課題学習の方法を示した。

各内容とも資料・文献によって展開される場合の多いことが示されている。

内容の特性からか、11. 応急処置では実験・実習が多く用いられている。調査活動は12. 環境の汚染と健康で比較的多く用いられ、討議法がもっとも多く用いられている内容は、15. 結婚と健康の27.6%である。ロールプレイはまだ一般的に用いられているとはいえない。

おそらく现阶段でもっとも相応しい方法が用いられていると考えられるが、課題学習の条件整備の程度について

は不明であることから、これらが必ずしもベストの方法であるとは判断できない。いずれにせよ、今後課題学習を展開していくうえでは参考となる結果である。

8. ティームティーチングの実施状況

『高等学校保健体育指導資料』は課題学習の推進に当たって、一人の教師の指導だけでは限界があることから、ティームティーチングを積極的に取り入れるなど、教師の協力体制が必要であると述べている⁹⁾。

図3にティームティーチング(教師間の連携, 指導体制を工夫した学習指導)の実施状況を示した。

表7 自己教育力の育成を目指すうえで重視する観点 (%)

	非常に重視する	重視する	どちらとも言えず	重視せず	まったく重視せず	N.A.
①	8.7	57.2	27.5	2.1	0.3	4.2
②	24.0	60.8	11.1	0.3	0.3	3.6
③	17.1	56.6	20.4	2.7	0	3.3
④	4.2	41.9	43.4	6.0	1.2	3.3

- ①生徒が自ら新しい内容を身につけていく過程が組み込まれていくこと
 ②生徒の興味や関心などが、学習に生かされる工夫がなされること
 ③生徒が主体的に活動する機会や場面が多く取り入れられていること
 ④学習の成果を自己評価する過程が組み込まれていること

表8 自己教育力の育成を目指す評価の観点 (%)

	非常に重視する	重視する	どちらとも言えず	重視せず	まったく重視せず	N.A.
基礎・基本事項の定着	19.2	57.5	18.9	1.8	0	2.7
意欲・思考力等の育成	26.6	58.1	11.1	1.2	0	3.0
自ら意志決定できる	15.0	46.7	30.5	3.0	0.3	4.5
日常の学習過程	12.9	49.1	30.5	3.3	0	4.2
自己評価能力の育成	4.8	39.2	45.5	5.4	0.3	4.8
生徒の適性	5.7	36.2	47.0	5.4	0.9	4.8

いずれの単元でも実施している学校は15~18%程度で、決して多いと実感できる値ではない。したがって、課題学習が進展していない背景には、チームティーチングが積極的に行われていないことも影響しているようである。教師はその効果を認めているわけであるから、いち早くチームティーチングを含め、課題学習のできる体制作りが必要であると指摘できる。

9. 自己教育力の育成を目指す学習指導のあり方として重視すべき観点

『高等学校保健体育指導資料』は、教科書を中心とした知識や技能を教師主導型で展開するといった従来の画一的、硬直的学習指導からの転換を図ることが重要であり、そのため保健の学習指導で配慮すべき点として次の4点をあげている。つまり、①生徒が自ら新しい内容を身につけていく過程が組み込まれていくこと、②生徒の興味や関心などが、学習に生かされる工夫がなされること、③生徒が主体的に活動する機会や場面が多く取り入れられていること、④学習の成果を自己評価する過程が組み込まれていることである¹⁰⁾。

表7はこれらを教員がどの程度重要視しているかの結果である。

重視する(非常に重視する+重視するに回答した者の計)にもっとも回答が多かったのは、②生徒の興味や関心などが学習に生かされる工夫がなされることであり85%に支持されている。③生徒が主体的に活動する機

会や場面が多く取り入れられていることにも7割以上が重視すると回答している。

つまり、自己教育力を育成するためには、生徒の興味・関心を生かしながら、生徒自らが新しい学習内容を身につけるよう配慮することが重要であるとする教員が多いということである。学習指導においては、「自己教育力」と「生徒の興味・関心を生かす」をキーワードとして認識しておくことが重要であると指摘できる。

10. 自己教育力の育成を目指す上で重要視すべき評価の観点

保健の評価は、新しい学力観に対応して次のような観点から行われるべきであるとされている。つまり、①基礎的・基本的事項の定着、②自ら学ぶ意欲や思考力、判断力の育成、③自ら意思決定できる、④日常の学習過程、⑤生徒の自己評価能力の育成、⑥生徒の適性の6点である¹¹⁾。

表8は教員がこれらの観点をどの程度重要視しているかについての結果である。

いずれの観点も重要であるとする回答の多いことが示されているが、中でも「自ら学ぶ意欲や思考力、判断力の育成」と「基礎的・基本的事項の定着」を重要視している割合の高いことが示されている。つまり、高等学校においては、系統的、組織的に学習できる最終段階として基礎・基本を十分身につけたか、そして生涯を通じて健康・安全に対して意欲的に取り組もうとする態度が備

表9 使用される参考資料

(%)

	指導計画	教材研究	評価テスト
① 『学習指導要領解説』	57.2	15.6	1.8
② 『保健体育指導資料』	48.5	31.7	6.0
③ 保健体育教科書	62.0	70.1	51.5
④ 保健体育評価問題	10.2	26.3	84.4
⑤ 教授用参考資料	25.4	82.3	21.9
⑥ 指導ノート類	26.9	66.5	42.2
⑦ 関連教科の教科書	8.7	41.3	6.9
⑧ 関連教科の評価問題	2.4	9.9	35.3
⑨ 関連教科の教授用参考資料	8.7	40.7	8.7
⑩ 保健関連雑誌	10.8	79.9	13.5
⑪ 自作の資料	15.0	53.6	26.6
⑫ 特に使用するものはない	0	0.3	0.3
N.A.	6.9	2.4	5.1

わったかを重要であるとする教員が多いことを示している。評価では、「自己教育力」と「基礎・基本の定着」、「意欲、思考力・判断力の育成」を観点として重要視すべきであると指摘できる。

評価は目標に対して行われることから考えれば、これらは新しい時代における保健の目標を設定する場合の示唆ともなる。

11. 保健体育科の教員はどのような資料に基づいて授業を展開しているか

表9は指導計画の作成、教材研究、評価テスト等において、保健体育科の教員がどのような資料を利用しながら進めているかを示したものである。

学習指導に関するそれぞれの段階で、各教員が資料を使い分けて用いていることが示されている。

指導計画の段階では、教科書を中心に文部省による資料を使用する割合が高く、教材研究では、教科書と教授用参考資料に加え保健関連の雑誌も多く活用されていることがわかる。また、半数強の教員が自作の資料を教材研究で使用していることが示されている。

使用している参考資料の点数に着目すると、一人当たりの平均では、指導計画2.8点、教材研究5.2点、評価テスト3.0点となり、教材研究では多方面から情報を収集していることが推察される。

評価テストでは、教科書に準拠して作成された問題集を活用する割合の多いことが示されているが、それも完全依存という形でないことは他にも回答が分散していることから伺える。

ま と め

高等学校における保健の授業の現状と問題点を、体育主任に対する調査から把握し、今後の保健の授業のあり方について検討した。結果はおよそ次のようにまとめることができる。

- 高等学校の保健で学習すべき4つの単元の学習の順序は、教科書の編集に準じて行われている割合が高い。これは学習の順序を変えざるを得ないほどに生徒の実態が異なっていないということでもある。
- 保健の授業は計画の70～80%程度実施されるにとどまっている。1学年、2学年とも後半に予定されている単元の学習が行われていない場合が多く見られる。
- 各単元の学習を開始するに際して、診断的評価を実施している学校は半数以下である。
- 保健の授業における課題学習やチームティーチングの導入は、まだ一般化しているとはいえない。しかし多くの教員は課題学習の効果を認めている。これらの学習方法が展開できる指導体制の確立が期待される。
- 自己教育力を育成するためには、生徒の興味・関心を生かすことが必要であると実感している教員が多い。
- 評価の観点としては、自ら学ぶ意欲や思考力、判断力の育成を重視すべきであると考えている教員が多い。
- 保健体育の教員は幅広い資料に基づいて授業を展開している。特に教材研究においては、平均5.2点の参考資料を用いている。

生徒の意欲・関心を高め、自己教育力の育成を目指す保健の授業のあり方について、多くの教員は共通した考えを持っている。それが実現できる授業時間の確保と、指導体制の確立が早急の課題であると考察する。

注記・参考文献

- 1) 『高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編』文部省, p. 47, 1989.
- 2) 『高等学校保健体育指導資料, 指導計画の作成と学習指導の工夫』文部省, p. 84, 1992.
- 3) 原書房刊, 1995.

- 4) 1) 前掲書 p. 63.
- 5) 1) 前掲書 p. 14.
- 6) 1) 前掲書 p. 63.
- 7) 2) 前掲書 p. 103.
- 8) 2) 前掲書 p. 103.
- 9) 2) 前掲書 p. 103.
- 10) 2) 前掲書 pp. 100-102.
- 11) 2) 前掲書 pp. 116-117.

なお、本研究の一部は平成7年度父母会奨励研究費によって行われたものである。

保健科教育に関する実態調査 (高等学校)

1. 貴校では保健の授業(2単位)をどの学年で、どのように実施されていますか。該当するものに○印をつけて下さい。

- (1) 1 学年で 2 単位 (2) 2 学年で 2 単位 (3) 3 学年で 2 単位 (4) 1,2 学年で各 1 単位 (5) 2,3 学年で各 1 単位
 (6) 1,3 学年で各 1 単位 (7) 1,2,3 学年で 2 単位 (8) その他

2. 平成 6 年度入学生(新学習指導要領適用)について、4 つの単元の実施(予定)学年をご記入下さい。また、配当授業時数については、計画上の授業時数と実際に実施された授業時数の両方を()内にご記入下さい。まだ実施されていない単元については計画時数のみで結構です。

実施(予定)学年	《現代社会と健康》		《環境と健康》		《生涯を通じる健康》		《集団の健康》	
	()年	()年	()年	()年	()年	()年	()年	()年
配当授業時間数	計画	実施	計画	実施	計画	実施	計画	実施
	()	()	()	()	()	()	()	()

3. 4 つの単元の授業に際し、生徒に対する事前評価(診断的評価)実施についてお答え下さい。いずれかの単元で実施していれば、(1)実施しているに○印をつけて下さい。なお、ここでの「評価と」は、通知表や指導要録に記録する「評定」とは別のものとしてお考え下さい。

- (1) 実施している (2) 実施していない

→実施している場合は、各単元ごとに実施方法の該当する箇所に○印をつけて下さい。

	《現代社会と健康》	《環境と健康》	《生涯を通じる健康》	《集団の健康》
(1) 客観的な選択方式の簡易テスト	()	()	()	()
(2) 予習及び復習的な性格を持ったレポート	()	()	()	()
(3) 既習事項の理解度、達成度等を把握するレポート	()	()	()	()
(4) 学習事項の理解、認識にかかわる自由記述式の質問紙	()	()	()	()
(5) 授業の始めの導入質問	()	()	()	()
(6) 日常生活の観察	()	()	()	()
(7) その他の方法	()	()	()	()

4. 次の 4 単元 21 項目に関する「課題学習」の実施等についてお答え下さい。また、その場合の学習方法について該当する箇所にも○印をご記入下さい。

なお、ここでの「課題学習」とは、「生徒が自ら学習の目標となる課題を設定し、自主的・自発的に学習を進め、課題の解決を図る学習」とお考え下さい。
 「実施した」は、平成 6 年度入学生に対して「これまで実施したことがある」。「実施予定」は、「まだ実施していないが既に予定に入っている」場合をいいます。課題学習を実施していない場合、予定がない場合は空欄で結構です。

実施の有無	《4 単元 21 項目》	《該当する学習方法》					
		資料文献	調査活動	実験実習	討議法	ロールプレイ	その他
実施した ()	1. 国民の健康水準と疾病構造の変化	()	()	()	()	()	()
()	2. 健康の成り立ち	()	()	()	()	()	()
()	3. 食事、運動、休養と健康	()	()	()	()	()	()
()	4. 喫煙や飲酒、薬物乱用と健康	()	()	()	()	()	()
()	5. 医薬品と健康	()	()	()	()	()	()
()	6. 心身相関	()	()	()	()	()	()
()	7. 欲求と適応機制	()	()	()	()	()	()
()	8. 自己実現	()	()	()	()	()	()
()	9. 交通事故の現状と対策	()	()	()	()	()	()
()	10. 交通事故の防止と人間の行動	()	()	()	()	()	()
()	11. 応急処置	()	()	()	()	()	()
()	12. 環境の汚染と健康	()	()	()	()	()	()
()	13. 環境の調和と健康	()	()	()	()	()	()
()	14. 思春期と健康	()	()	()	()	()	()
()	15. 結婚と健康	()	()	()	()	()	()
()	16. 母子と健康	()	()	()	()	()	()
()	17. 加齢と健康	()	()	()	()	()	()
()	18. 職業と健康	()	()	()	()	()	()
()	19. 疾病予防活動	()	()	()	()	()	()
()	20. 環境と食品衛生活動	()	()	()	()	()	()
()	21. 保健・医療の制度	()	()	()	()	()	()

5. 保健の授業における「課題学習」の効果について、該当する箇所には○印をご記入下さい。
「課題学習」を実施していない場合でもお答えください。

	大あ 変る 効 果 が	効 果 が あ る	ど い ち え ら な い も	効 果 は な い	全 な く い 効 果 は
①生徒の学習意欲を喚起するうえで課題学習は	()	()	()	()	()
②自主的自発的な学習を促進するうえで課題学習は	()	()	()	()	()
③健康・安全に関する思考、判断力を高めるうえで課題学習は	()	()	()	()	()
④健康・安全に関する知識・理解を深めるうえで課題学習は	()	()	()	()	()
⑤健康・安全に関する問題解決を図るうえで課題学習は	()	()	()	()	()

6. 自己教育力の育成を目指す学習指導のあり方として、次の観点はどの程度重視されますか。

	非 す 常 に 重 視	重 視 す る	ど い ち え ら な い も	重 視 し な い	全 し く な 重 い 視
(1)生徒が自ら新しい内容を身につけていく過程が組み込まれていること	()	()	()	()	()
(2)生徒の興味や関心などが、学習に生かされる工夫がなされること	()	()	()	()	()
(3)生徒がじっくり考え、進んで試みるなど主体的に活動する機会や場が多く取り入れられること	()	()	()	()	()
(4)学習の成果を生徒自身が自己評価する過程が組み込まれていること	()	()	()	()	()

7. 自己教育力の育成を目指す評価のあり方として、次の観点はどの程度重視されますか。なお、ここでの「評価」とは、成績通知表や指導要録に記録するための「評定」とは区別してお考え下さい。

(1)基礎的・基本的事項の定着	()	()	()	()	()
(2)自ら学ぶ意欲や思考力、判断力の育成	()	()	()	()	()
(3)自ら意志決定できる	()	()	()	()	()
(4)日常の学習過程	()	()	()	()	()
(5)生徒の自己評価能力の育成	()	()	()	()	()
(6)生徒の適性	()	()	()	()	()

8. 「指導計画」、「教材研究」、「評価テスト」を準備する際の参考資料として使用されるものがありましたら、それぞれの該当するものすべてに○印をつけて下さい。

	指導計画	教材研究	評価テスト
①『学習指導要領解説』（文部省）	()	()	()
②『高等学校保健体育指導資料』（文部省）	()	()	()
③保健体育教科書（文部省検定済）	()	()	()
④保健体育評価問題（教科書出版社作成）	()	()	()
⑤保健体育教授用参考資料（教科書出版社作成）	()	()	()
⑥指導ノートの類（教科書出版社作成）	()	()	()
⑦関連教科の教科書（教科書出版社作成）	()	()	()
⑧関連教科の評価問題（教科書出版社作成）	()	()	()
⑨関連教科の教授用参考資料（教科書出版社作成）	()	()	()
⑩保健関連雑誌	()	()	()
⑪自作の資料	()	()	()
⑫特に使用するものはない	()	()	()

9. 下記の各設問に該当する単元がありましたら、その単元の（ ）に○印をご記入下さい。

《現代社会と健康》《環境と健康》《生涯を通じる健康》《集団の健康》

①「指導計画」作成に当たって、他教科との関連を考慮した	()	()	()	()
②ティームティーチング（教師間の連携、指導体制を工夫した学習指導）を実施した	()	()	()	()

ご協力ありがとうございました。

まとも次第結果を郵送させていただきますので、学校名をお書き下さい。
都道府県名（ ）（ ）

）高等学校